

第2回廃棄物減量化及び資源化推進審議会における各委員の主な意見等 (議事録から要約したもの)

奴田委員

- ・説明通りに動けば希望が持てるが、希望的観測がかなり含まれていると思う。
- ・審議会では焼却場をつくるという意見であったが、年が明けたら市長は焼却場をつくらないと発表した。その事について、市長に説明を求めたが、同席していた他の自治会長も焼却場建設に賛同しており、完全に市民の声である。鎌倉のごみは鎌倉で焼却しないとだめである。
- ・生活環境審議会の意見が強く、最終的な結論を出していると感じる。この審議会では野村総研の跡地を新焼却施設の候補地にしたらどうかという意見が出ていたが候補地は山崎になった。山崎が無理ならどこか別の場所に変えるという意見は無い。

大道委員

- ・生ごみ資源化施設の整備については、今泉の住民の理解が最優先課題だと思う。例えばもう少し小さい規模で2か所程度に分散させると理解が得られると考える。臨時の際に対応できるような置き場や処理についても分散させる方が住民には理解しやすいと思う。
- ・クリーンステーション収集は効率的かもしれないが、住民には戸別収集の希望が根強くある。紙おむつの収集もクリーンステーションで行うということであるが、戸別収集にした方が自分の責任で回収してもらえ、プライバシーも守られる。柔軟にもう一度検討いただきたい。

牧田委員

- ・戸別収集や施設のことなど意見を言ったのに、違う結論になると、奴田さんのお気持ちはよくわかるが、大事なことはこの方がよかったから決定したということを住民が理解できるよう説明をすることだと思う。そこを明示しないと先に進まない。
- ・今回の課題は生ごみの分別ある。事業者として生ごみを自社で堆肥化しているが、実際にやるのは大変である。燃やすごみと一緒に生ごみを出している人は分別は負担だと思う。焼却施設を建設しないため、更なる減量化が必要だという経緯が理解できるようにしていかないと難しい。
- ・事業系の廃棄物に関して、厳しい答申が出ているが、事業者も個別に努力している。現在も新型コロナウイルスの影響で鎌倉市内の事業者は痛手を受けており、その中でやるべき事がどんどん増えている。ただ課金をして減らすということではなく、どう減らすか、生ごみ処理機の導入の可否なども含めてサポート体制を整えて欲しい。

浅川委員

- ・焼却の技術はある意味適応力が大きい。問題が起きた時にその対応がとれるというメリ

ットがある。一方リサイクルは、分別や処理方法の精度を個別に高めていく必要がある
ので、適応力・対応力は難しい部分がある。リスク管理として災害廃棄物の対応やバックアップ体制を考えているが、バックアップ体制一つをとっても、何かあった時にすぐに受け入れてくれる施設があるかどうか、その部分を担保していくことが大事だと思う。突発事項も含めて、処理ができないという状況は行政としてあってはならないことである。

- ・ごみを受け入れる逗子市民の住民感情は大事だと以前より話をしているが、資料を見ると大きな反対はないとのこと。反対の声を出さない多くの住民はどう考えているかであるが、平たく言えばあまり関心がない。関心がないということは積極的に賛成しているわけではないので、何かがあった時には大きな反対になることは起こりえる。逗子の市民感情も今は受け入れを理解いただいているが、同様のことがあると思うので、鎌倉は受け入れてもらう側として、必要な努力をしていかなければと思う。

保坂委員

- ・山崎の住民が反対したから焼却場が出来ないことにされてしまうのは問題だと考える。
- ・なぜ日本はイノベーションに投資していかないのかと疑問を持つ。ごみ問題において、初期投資が大きくても、難しい問題があっても、クリアしていくだけの技術革新の力が、日本にはあり、先進事例として大規模な東京より小規模で目立つ鎌倉で率先してやるのが非常に重要だと思う。
- ・市は広域処理を考え、効率面からも無駄に施設を造らない方がよいと思う。県内にはたくさん焼却施設があるのは時代錯誤である。焼却施設を減らしてゆくことは当然行わなければならないことである。それを踏まえた上で焼却施設を造らないことにしたことにするしかないのではないかな。

橋詰会長

- ・審議会の役割としては、前回焼却に関する答申を出し、基本計画を策定したが、その答申に対して市は違う方針を示した。一方、審議会は意見を申し上げる場で、それを入れる入れないは市の責任である。（答申と違っていたから）審議会は知らないというのではなく、審議会に与えられているのは減量化・資源化を総合的かつ計画的にという観点から意見を申し上げる立場を採らなければならない。方針を変えるなら、それが理解され、うまくいくかどうかも含めて議論をしていかなければならないと思う。
- ・次回、欠席者の考えを聞くとともに、基本計画の改定についてどういうごみ処理方法をとるか、資料 2-1, 3-1 の広域化というのが中身の大枠にかかわってくるため、そこを固めないと全体的な議論が難しい。広域は鎌倉だけではなく他市との関係もあるので、ある程度の考え方を示さないと他市も動きにくいと思う。広域に関する意見としてはワンクッションあるように感じるため、今回は全体の話と広域計画など、もう少し踏み込んだ議論をした方がよいと思う。